

【令和元年度 県外研修会参加等助成事業 研修報告】

「2019 年度大阪 YWCA 専門学校主催による子どもと子どもの本の講座」

天野佳代子

2月17日(月)大阪で行われた「2019年度大阪YWCA専門学校主催による子どもと子どもの本の講座 かこさとし(加古里子)の絵本—遊び・働き・考える②」に参加させていただきました。この講座は大阪YWCAが行っている「子どもと本をつなぐ人のためのスキルアップ講座」です。講師は大阪人間科学大学・京都教育大学非常勤講師の村川京子先生です。子どもたちが大好きな『だるまちゃんシリーズ』や『からすのパンやさん』など日本を代表する絵本作家であり科学者、技術者でもあった加古さんは約600作品を生涯にわたって子どもたちのために提供しました。村川先生は絵本の読み聞かせを通して、加古さんが子どもたちへ贈った様々なメッセージをお話し下さいました。

1926年福井県武生町で生まれた加古さんは民間化学会社に勤務しながら川崎セツルメント活動をします。セツルメントとは戦後間もなくおこなわれた地域子ども教育支援活動のことです。その当時の子どもたちは貧しくともたくましく何でも遊びにかえてしまうエネルギーとパワーを持っていました。好奇心と知恵を兼ね備えた子どもたちが工夫しながら楽しく遊ぶ姿を見て、加古さんは幼児教育書にも載っていない子どもたちのすばらしい力の発見をします。「子どもは感性で生きている。子どもは理屈ではなく感じたままに生きているすばらしい小さな人間。未来の子どもたちのために自分はメッセージを送り続ける」。紹介された『だむのおじさんたち』は1959年に発表されたデビュー作品です。水力発電のダム建設がテーマです。過酷な現場の迫真の表現は測量から完成まで加古さんが専門とする科学の知識や技術の知恵が丁寧に描かれています。しかし、この本のねらいはダムができるまでの過程だけでなく、そこで働く人の苦勞や喜び、悲しみや人間の考える知恵のすばらしさ、働く真実を伝えていきたいとの加古さんの思いです。それに加え吹雪や嵐などを科学的な根拠をもとに緻密でわかりやすく表現されているのもすばらしいと思いました。

未来に生きる子どもたちの手がかりとなる絵本を作り続けた加古さんの作品には子どもたちへの深い愛情を感じます。あるインタビューで加古さんは「私は子どもから学び続けています。」と話されていました。私自身も作者の思いや学び続ける意味を子どもたちと関わりながら伝え続けていきたいとあらためて思いました。

「こころとからだ よりたくましくあれ よりうつくしくあれ よりすこやかであれよきみらいのために かこさとし」かこさとし 公式サイト <http://kakosatoshi.jp> より引用

* 『だるまちゃんをとてんぐちゃん』作・絵 加古里子 1967年 福音館書店

* 『からすのパンやさん』 作・絵 かこさとし 1973年 偕成社

* 『だむのおじさんたち』作・画 加古里子 1959年 福音館書店